

謹んで、新春のお慶びを

申し上げます

併せまして、市民の皆さまの

ご多幸とご健勝を

心よりお祈り申し上げます

磐田市は

新年もさらなる発展を遂げ

笑顔あふれ

活力みなぎるまちへと

全力で突き進んで参ります

磐田市長

渡部 修



渡部修市長が語る



新型コロナウイルス感染症に^{ほんろう}翻弄された2020年。

2021年が明るい1年になりますように。

新型コロナウイルスの 対応に翻弄された1年

合併から15年の節目の年。さあみんなで盛り上げようと思っていました。が、新型コロナウイルスに振り回された1年になってしまいました。国からの要請で2月末に中学校の一齐休校を指示、4月には緊急事態宣言が発表され、より一層市民の皆さんに不安が広がったと思っております。

磐田市では、このような状況にいち早く対応するため「新型コロナウイルス関係対応班」を組織しました。一人10万円の特別定額給付金、また施設や店舗の休業に対する協力の支給など、至らない点もあつたかと思いますが、全力で対応することができたと考えております。

また、磐田市出身で県外の学生への支援策として「ふるさといわた応援事業」を実施いたしました。市の特産品と併せて私の稚拙な字ではありますが直筆の応援メッセージを添え、帰省できずに県外でがんばる学生を市民みんなが応援している思いをお伝えしました。

新型コロナウイルスの終息が見えない中、市民の皆さんには引き続き感染防止対策をお願いしております。継続していくことは簡単ではないと思いますが、市といたしましては職員一丸となってこの困難な状況に立ち向かってまいります。ご協力をお願いいたします。

みんなで支え合う いわた応援チケット

これまでも「できる事

は全てやる」という思いで目の前にある課題に真摯に向き合い、取り組んできたつもりであります。その一つとして、生活支援や事業支援を目的にした「いわた応援チケット」を発行、総額22億1千万円とこれまでにない規模で実施いたしました。コロナ禍で疲弊した生活・経済をご支援することができたのではないかと思っております。単に行政が金銭的支援をするのではなく、市民や事業所がみんな支え合い、応援し合う気持ちを持ってほしいと思います。

キーワードは「改革」

就任当時はリーマンショックや合併後に先送りされてきた課題が山積しているなど、市の財政



があらゆる面で危機的な状況にありました。まずはこのような状況を改善するため、次の時代の基礎を築くことを目標に、行財政改革や職員の意識改革などの課題を整理しながら取り組んでまいりました。

その結果、急患センターの開設や交流センターを中心としたまちづくり、

子ども医療費完全無料化や全校での小中一貫教育などによる子育て支援や人づくり、デマンド型タクシーの導入などによる福祉政策、市内全域に光ファイバー網を整備するなどの産業雇用政策、全国各地の自治体と災害協定を締結するなどの防災対策など、多くのことに挑戦することができま

した。これは、市民の皆さんのご理解とご協力があってこそのものであり、本当にありがたいと思っております。

自信と誇りを持つことが できる磐田市に

市の財政を立て直し、さまざまなことに取り組んできましたが、行政が実施することはあくまでも手段だと思っています。人によって良いと思うことは異なりますが、私が一番大事だと考えているのは「市民の皆さんがふるさと磐田に自信と誇りを持っていただくこと」です。これまで進めてきた政策がその一助になっていけば幸いです。

当たり前前の日常に

感謝を

私は今まで磐田市を

「優しきを感じられるまち」にすることができればと思っております。一人一人が心の中に「二日一善」の気持ちを持つことで、誰もが幸せな気持ちになれるのではないかなと思っております。幸せの価値も人によってそれぞれ異なりますが、当たり前前の日常に感謝し、ありがとうの気持ちを忘れず、優しきで溢れる磐田市になって欲しいと願っております。

市民の皆さんへ

今年は広い芝生広場と複合遊具を備えた大きな公園が今之浦地区にでき、「ながふじ学府一休校」の開校や東部地区の新たな子育て支援センターも開館します。また下野部工業団地へのさらなる企業誘致が期待できる

新東名スマートインターチェンジの開通や新たな文化の拠点となる「(仮称)磐田市文化会館」の開館なども控え、明るい未来も見えてきております。これからも引き続き防災・福祉・子育て・教育など、全ての事業をバランス良く進め、「磐田っていいな」と思っただけけるようなまちづくりを推進してまいります。

